

資料 2

棚田に関するアンケート結果等について

棚田に関するアンケート結果について

「島根ふるさとフェア 2017」「島根ふるさとフェア 2018」「H28輝けイレブン」「H29輝けイレブン」で実施した「棚田アンケート調査」の結果は次のとおりです。

- 島根ふるさとフェア 2017（広島市・広島グリーンアリーナ）
 - ・実施日：平成29年1月21～22日（土・日）
 - ・アンケート回収：400枚
 - 島根ふるさとフェア 2018（広島市・広島グリーンアリーナ）
 - ・実施日：平成30年1月20～21日（土・日）
 - ・アンケート回収：395枚
 - H28輝けイレブン（松江市・TSK 本社）
 - ・実施日：平成28年10月1～2日（土・日）
 - ・アンケート回収：563枚
 - H29輝けイレブン（松江市・TSK 本社）
 - ・実施日：平成29年9月30～10月1日（土・日）
 - ・アンケート回収：577枚
- （4つのアンケート共に40代以上の方からの回答が多かった。62%～86%）

1 米を購入する際の優先項目（複数回答可）

- ・ 4つのアンケート共に1位は「産地」、2位は松江市では「銘柄」、広島市では「価格」と「銘柄」がほぼ同数の状況。
- ・ 4つのアンケート共に「味」が4位、「安全性」が5位。

2 米の購入先（複数回答可）

- ・ 4つのアンケート共に約半数の人が「量販店、米屋」から購入。

3 普段食べている米の値段

- ・ 4つのアンケートでばらつきがある。

4 棚田米を購入してみたいですか

- ・ 85～91%の方が棚田米を購入してみたいと回答。

5 いくらまでなら棚田米を購入しますか

- ・ 他調査における米の購入における全国平均値が388円であり、約5割の方が400円以上の価格帯を購入すると回答しているため、この方々は多少割高でも棚田米を購入したいと考えている。

6 棚田ボランティアに参加したことがありますか

- ・ 「ある」と回答した人が4～8%であり、広島市と松江市で特に変わらなかった。

7 棚田ボランティアを募集した場合、参加しますか

- ・ 何れのアンケートでも約半数の方が参加したいと回答。

8 どのくらいの所（移動時間）なら参加しますか（参加すると回答した人のみ）

- ・ 松江市では「30分未満」「1時間未満」と回答した方が、約70%だったが、広島市では、約45%だった。反対に「2時間未満」と回答した方が、松江市では約20%、広島市では約40%だった。

【考察】

問１の結果によると、米を購入する際の優先項目の上位を「産地」「銘柄」が占めている。

また、問４の「棚田米を購入してみたいですか。」という問いに対しては、８割以上の人が「はい」と回答している。

このことより、購入者は米のブランドについてかなり関心を持ち、米の購入を考えていることがうかがえる。

問５の「いくらまでなら棚田米を購入するか」という問いに対し、松江市で行った「輝けイレブン」では、４００円未満を約４０％が占め高いが、広島県で行った「島根ふるさとフェア」では、その価格帯の占める割合は、約２０％程度と差がある。

また、６００円以上との回答は、松江では約１０％、広島では約１５％となっている。

この結果より、都市部での棚田米の評価は高いと考えられ、県外都市部への販売が棚田米の価値を上げ販売することが出来ると考える。

問７からの棚田ボランティアへの参加へのアンケートでは、参加募集をした場合、約半分の方は参加すると回答している。参加すると答えた中で、移動時間に関しては、広島で行ったアンケートでは、１～２時間未満までなら参加と回答している方が約４０％で、広島から島根県の棚田ボランティアへの参加も考えていると思われる。

以上のことより、棚田に興味があり、田舎の日常に魅力を感じている都会の人は多いと考えられ、「島根ふるさとフェア」などにおいて、県外に情報発信を多く行い、田舎の魅力を発信出来れば、棚田米の販売促進につながり、利益にもつながると考えられる。

併せて、購入してもらった場合のリピーターを増やす努力は必要である。

また、棚田ボランティアの募集をアンケートと同時にを行い、それをきっかけに次年度のオーナーの募集をするなどし、連動して働きかけしていく。

このようなことにより、収入を増やすことや、都市住民に直接耕作に関わってもらいながら棚田を保全していくことが出来るようになるのではないではないか。

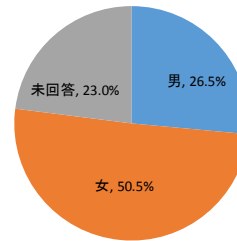
※農林水産省から示された「棚田キラーコンテンツ化促進ガイドVer. １」「棚田教室」の中にもオーナー制度について等記載されており、棚田の保全や地域の活性化に向けて取り組みについて参考となる記載あり。

■ 実施日： H29.1.21～1.22

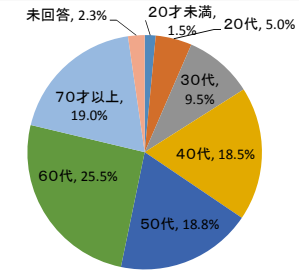
■ イベント名： 島根ふるさとフェア
広島グリーンアリーナ

■ アンケート回 400 枚

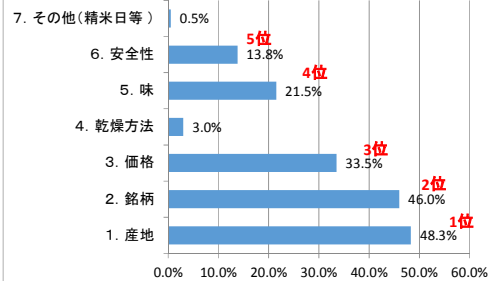
性別



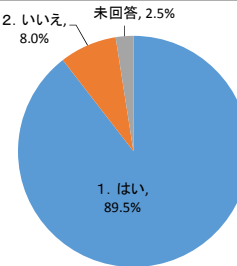
年齢



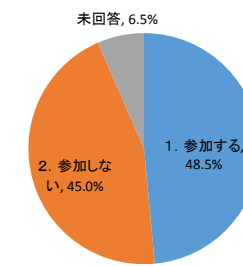
1 米を購入する際の優先項目(複数回答可)



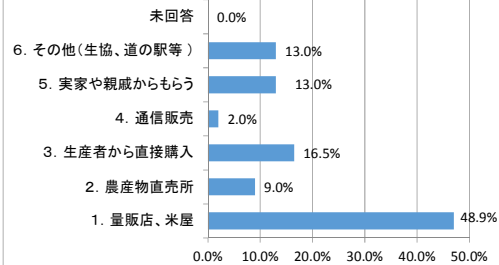
4 棚田米を購入してみたいですか。



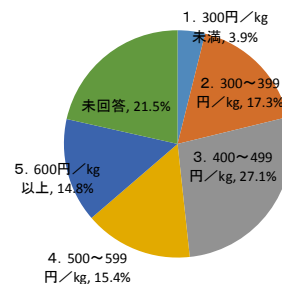
7 棚田ボランティアを募集した場合、参加しますか。



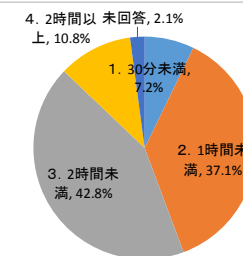
2 米の購入先(複数回答可)



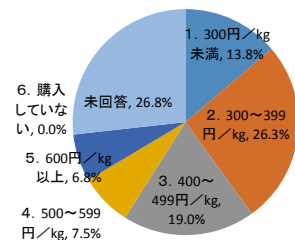
5 いくらまでなら棚田米を購入しますか。



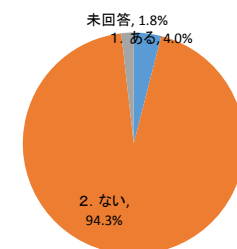
8 どのくらいの所(移動時間)までなら参加しますか。
(7で参加すると答えた方)



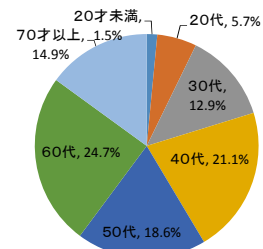
3 普段食べている米の値段



6 棚田ボランティアに参加したことがありますか。



(参考)参加すると答えた人の年齢層

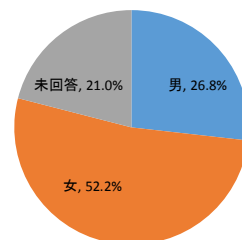


■ 実施日： H30.1.20～1.21

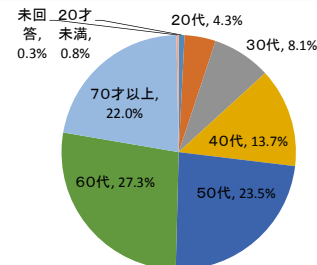
■ イベント名： 島根ふるさとフェア
(広島グリーンアリーナ)

■ アンケート回 395 枚

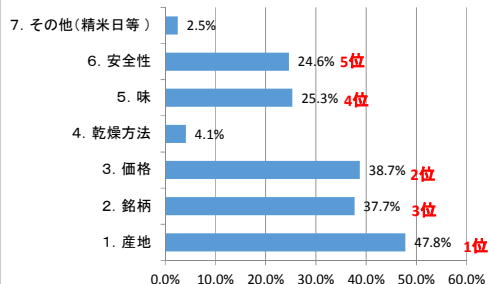
性別



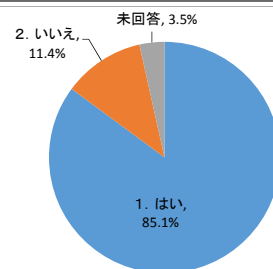
年齢



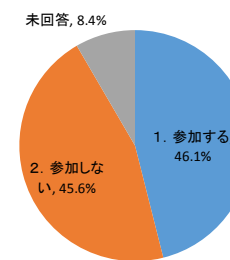
1 米を購入する際の優先項目(複数回答可)



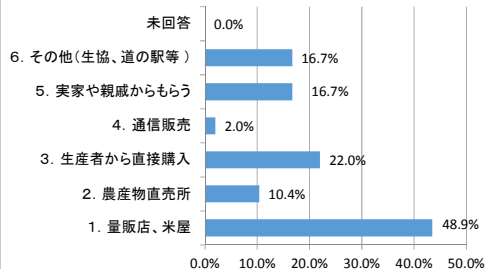
4 棚田米を購入してみたいですか。



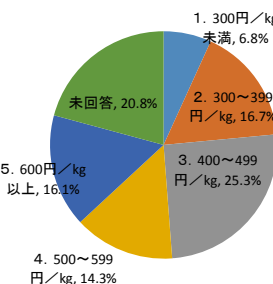
7 棚田ボランティアを募集した場合、参加しますか。



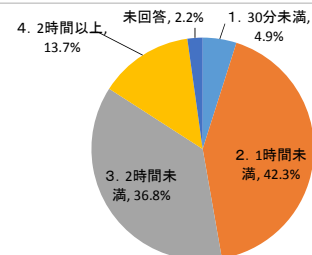
2 米の購入先(複数回答可)



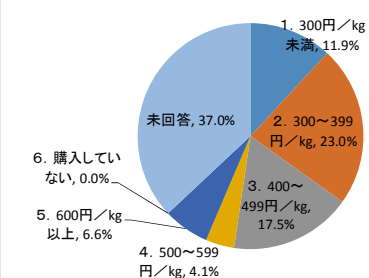
5 いくらまでなら棚田米を購入しますか。



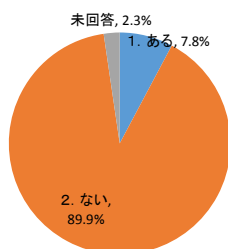
8 どのくらいの所(移動時間)までなら参加しますか。
(7で参加すると答えた方)



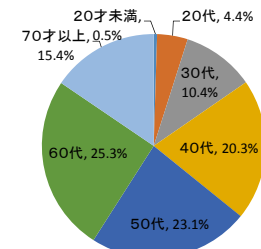
3 普段食べている米の値段



6 棚田ボランティアに参加したことがありますか。



(参考)参加すると答えた人の年齢層



【輝けイレブン】

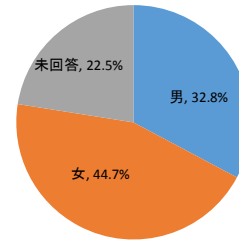
棚田に関するアンケート結果(H28年度)

■ 実施日： H28.10.1～10.2

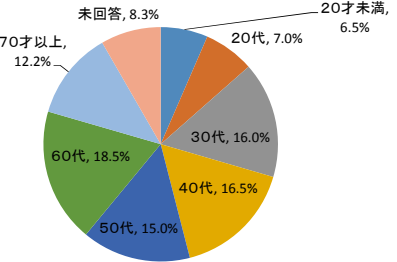
■ イベント名： 輝けイレブン
(TSK本社)

■ アンケート回 563 枚

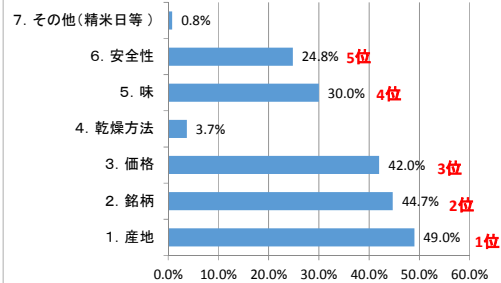
性別



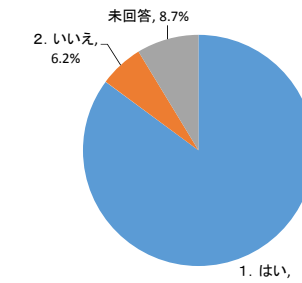
年齢



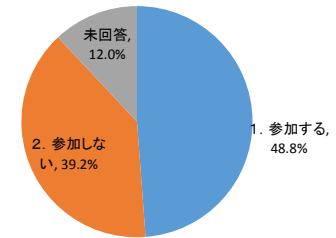
1 米を購入する際の優先項目(複数回答可)



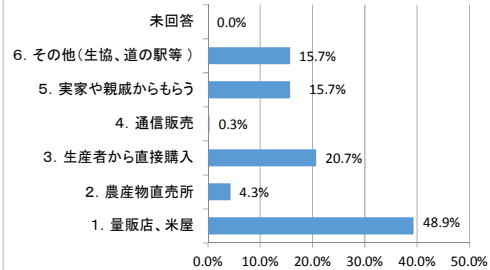
4 棚田米を購入してみたいですか。



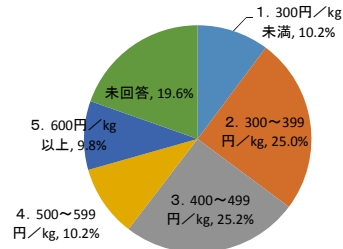
7 棚田ボランティアを募集した場合、参加しますか。



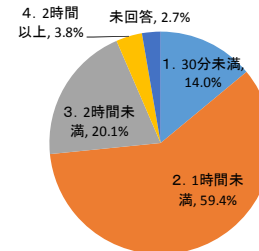
2 米の購入先(複数回答可)



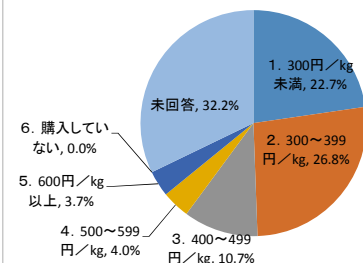
5 いくらまでなら棚田米を購入しますか。



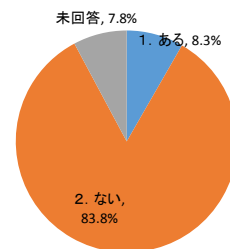
8 どのくらいの所(移動時間)までなら参加しますか。 (7で参加すると答えた方)



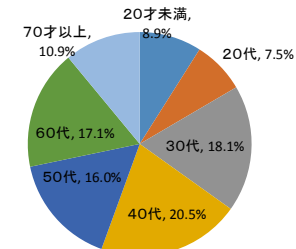
3 普段食べている米の値段



6 棚田ボランティアに参加したことがありますか。



(参考)参加すると答えた人の年齢層



【輝けイレブン】

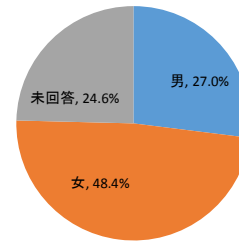
棚田に関するアンケート結果 (H29年度)

■ 実施日： H29.9.29～9.30

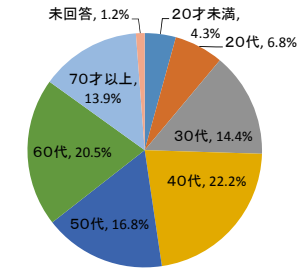
■ イベント名： 輝けイレブン
(TSK本社)

■ アンケート回 577 枚

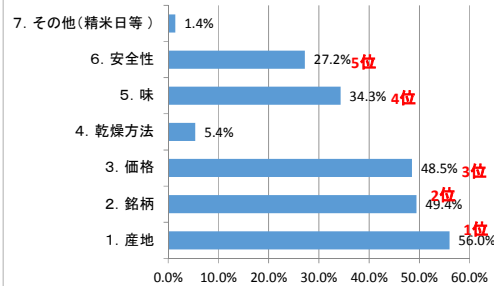
性別



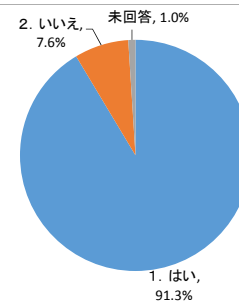
年齢



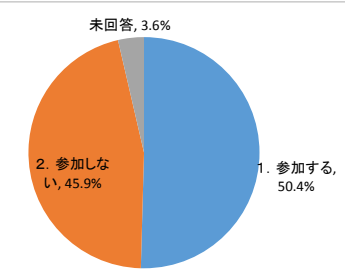
1 米を購入する際の優先項目(複数回答可)



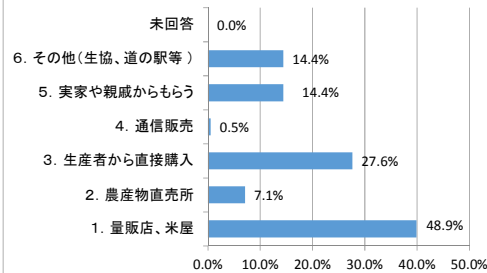
4 棚田米を購入してみたいですか。



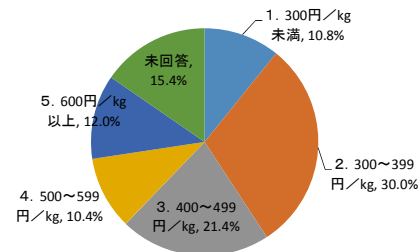
7 棚田ボランティアを募集した場合、参加しますか。



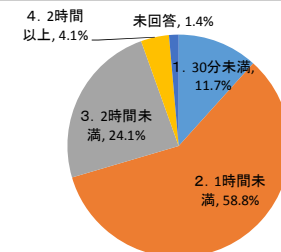
2 米の購入先(複数回答可)



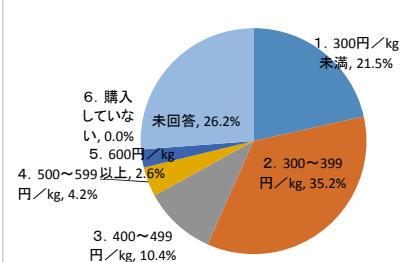
5 いくらまでなら棚田米を購入しますか。



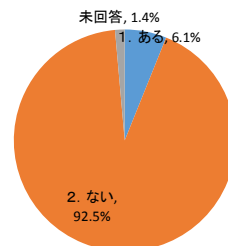
8 どのくらいの所(移動時間)までなら参加しますか。(7で参加すると答えた方)



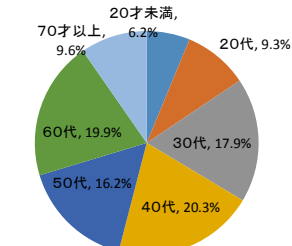
3 普段食べている米の値段



6 棚田ボランティアに参加したことがありますか。



(参考)参加すると答えた人の年齢層



棚田保全で 意見交換

自民PT
新潟視察

自民党の棚田支援に関するプロジェクトチーム（PT）は14日、新潟県十日町市で現地視察をした。江藤拓座長らPT幹部の国会議員3人が参加。「清水の棚田」や「星峠の棚田」を見回り、棚田を生かした地域活性化に取り組む住民らと意見交換。多彩な棚田



保全の手法を確認した。PTは、棚田の価値を

棚田を視察する江藤座長（左から2人目）らPTメンバー（14日、新潟県十日町市で）

再評価し、地域の維持・保全活動を支援する仕組み作りを目指す。新しい法律の制定を目指し、中山間地域等直接支払制度などとは別枠の支援制度を構築したい考えだ。

池谷集落でPTメンバーは、地元住民と地域おこし協力隊など外部の人材が一体となった地域おこしの実態を視察した。同集落の活性化を進めるNPO法人「地域おこし」の多田朋孔事務局長は「今後の棚田保全では、都市住民がいかに重要性を認識するかが大事だ。ただ、農村にも、外部人材の受け入れに消極的という課題がある」と話した。

視察を振り返って江藤座長は「棚田の守り方は千差万別だ。若い都市住民が農村に定住し、地域を盛り上げる取り組みは、先進的なモデルとなる」と評価した。